

# 鳴門教育大学の教育等に関するアンケート

【平成23年12月実施：教育長，公立学校長】

## ＜分析報告＞

1 目的	1
2 方法	1
(1) 対象者	1
(2) 実施時期	1
(3) 教育長・学校長へのアンケートの内容	1
3 教育長・学校長へのアンケートの結果と考察	2
(1) 鳴門教育大学の学部を卒業した教員の全体的な印象	3
(2) 鳴門教育大学の大学院を修了した教員の全体的な印象	5
(3) 今後の教員の在り方を見据え，鳴門教育大学で伸ばして欲しい能力	7
(4) 鳴門教育大学・大学院の教育内容について，良いと思われること， 改善すべき点又は要望	9

## 1 目的

本学の教育の状況について、デマンド・サイドの意見を把握することにより、教育の質の維持・向上及び教育研究体制の一層の充実を図ることを目的とする。

## 2 方法

### (1) 対象者

徳島県内の教育委員会教育長，徳島県内公立幼・小・中・高・特別支援学校長：対象者503人，回答者318人（回収率63.2%）

### (2) 実施時期

平成23年12月に，各教育長・学校長あてにアンケートを郵送した。

### (3) 教育長・学校長へのアンケートの内容

- ①本学の学部を卒業した教員の全体的な印象について，4件法で回答を求めた。
- ②本学の大学院を修了した教員の全体的な印象について，4件法で回答を求めた。
- ③本学で伸ばして欲しい能力について，責任感，コミュニケーション能力，専門領域における知識など15項目を設定し，3件法で回答を求めた。
- ④本学の教育について，自由記述で回答を求めた。

### 3 教育長・学校長へのアンケートの結果と考察

平成19年10月及び平成21年7月に、今回のアンケートと同じように本学を卒業・修了した教員に対する印象を徳島県内の教育長・公立学校長に尋ねている。

なお、平成23年度のアンケートについては、今後の業務の改善により生かしやすいするため、これまでの5段階評価から4段階評価に変更し実施している。

学部卒教員及び大学院修了教員ともに、全体的な印象を問う設問のすべてにおいて、肯定的な回答が6割を超えており、本学の学部卒教員・大学院修了教員が、県内の教育委員会や学校長から、一定の評価を得ていることが分かる。

その中でも特に評価が高い項目については、本学の教育課程のストロングポイントとして認識し、より一層の充実を図るための方策を取ることが望ましい。

なお、すべての設問において一定の評価を得ているものの、相対的に評価が低い項目については、原因を追究し、改善していくことが必要である。

また、改善が必要だと考えられる事項のうち、過去の調査結果においても同様の傾向が見られる事項については、過去の調査結果を受けての本学の対応が十分でなかった可能性も考えられ、今後更に対応を検討していく必要がある。

これまで、教育長・学校長へのアンケート結果について、学内外に周知し、教育の維持・向上及び教育研究体制の一層の充実を図ってきたところであるが、在学生への周知は十分ではなかった。

本アンケート結果は、在学生にとって、卒業・修了後に教職に就く（現職教員である大学院生にとっては、復職する）際に、学校現場からどのようなことを求められているかを知ることができる資料だと思われる。

在学生に対しても、本アンケート結果を周知することで、卒業・修了生に対する評価とともに、学校現場で求められていることを事前に知ることによって、修学への強い動機付けとなることを期待する。

(1) 鳴門教育大学の学部を卒業した教員の全体的な印象 (グラフ1)

「総合的に評価して、教員として満足できる。」では、肯定的な回答が9割を越えており、高い評価を得ていると言える。

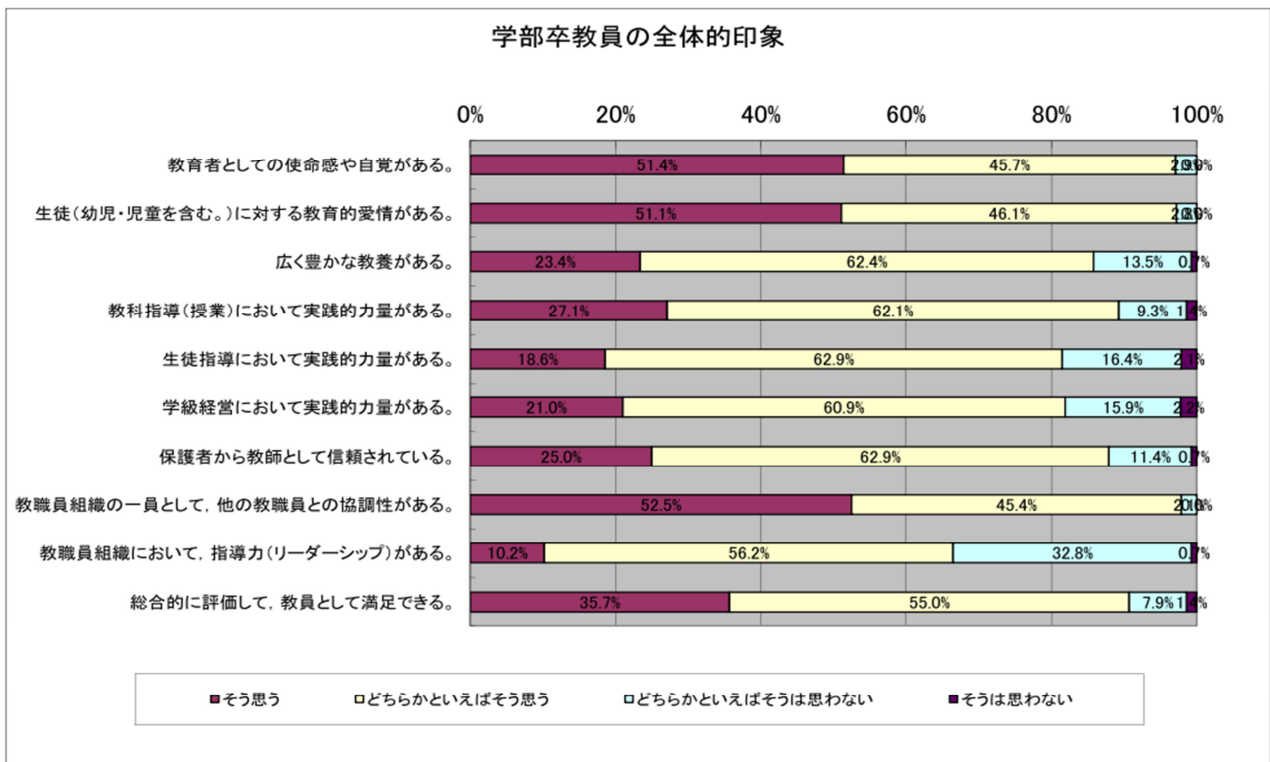
特に「教育者としての使命感や自覚がある。」「生徒(幼児・児童を含む。)に対する教育的愛情がある。」「教職員組織の一員として、他の教職員との協調性がある。」が肯定的な回答の割合が高く、本学学部卒業生が真摯に教職に取り組んでいることが伺える。

相対的に、「教職員組織において、指導力(リーダーシップ)がある。」については、否定的な回答の割合が高いが、学部を卒業して5年以内の教員が指導力を発揮する立場でないことが影響していると推測できる。

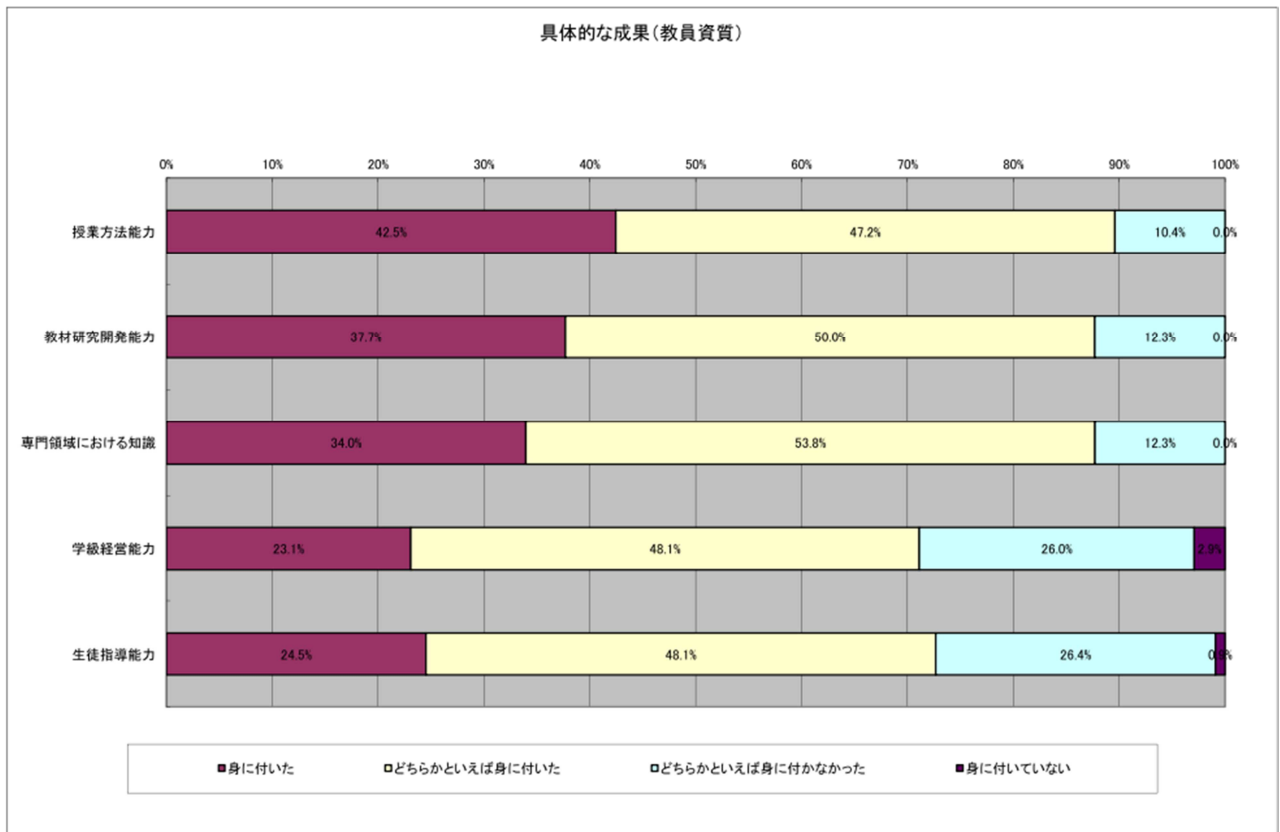
次いで、「生徒指導において実践的力がある。」「学級経営において実践的力がある。」が否定的な回答の割合が高い。この点については、「教科指導(授業)において実践的力がある。」に比べても否定的な回答の割合が5ポイント以上高く、本学学部卒教員の課題が示されていると言える。

生徒指導及び学級経営に係る能力については、卒業生へのアンケート結果でも、例年、他の項目に比べ「身についた」とする回答の割合が低い傾向があり(グラフ2参照)、本学の教育課程の課題であると考えられる。

特に、生徒指導力については、ディプロマポリシーにも掲げている事項であり、対応について十分に検討する必要がある。



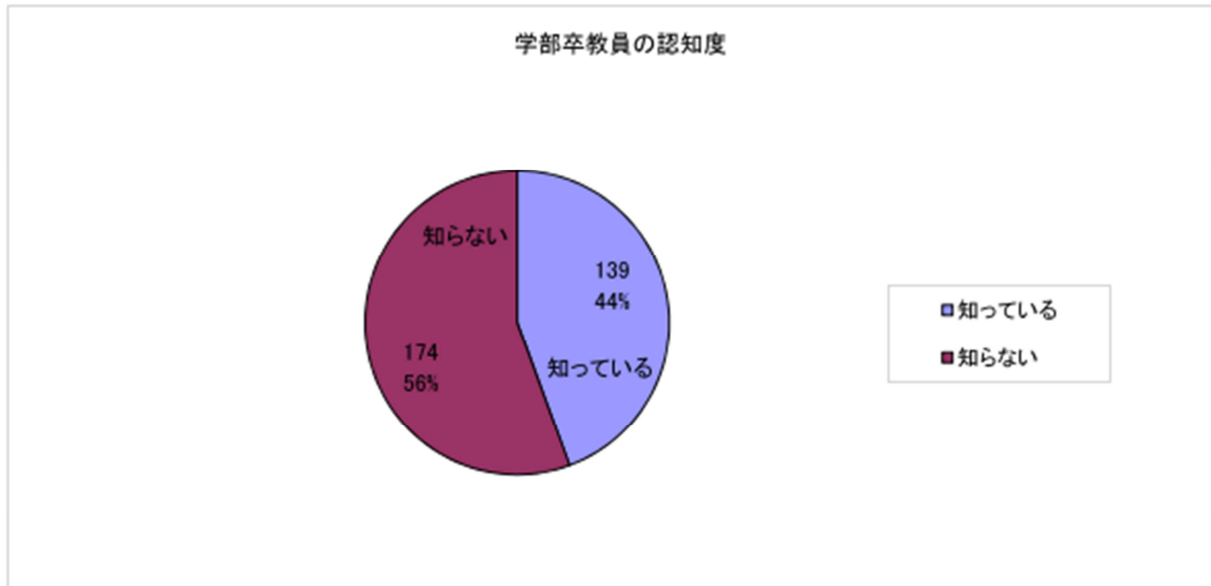
(グラフ1)



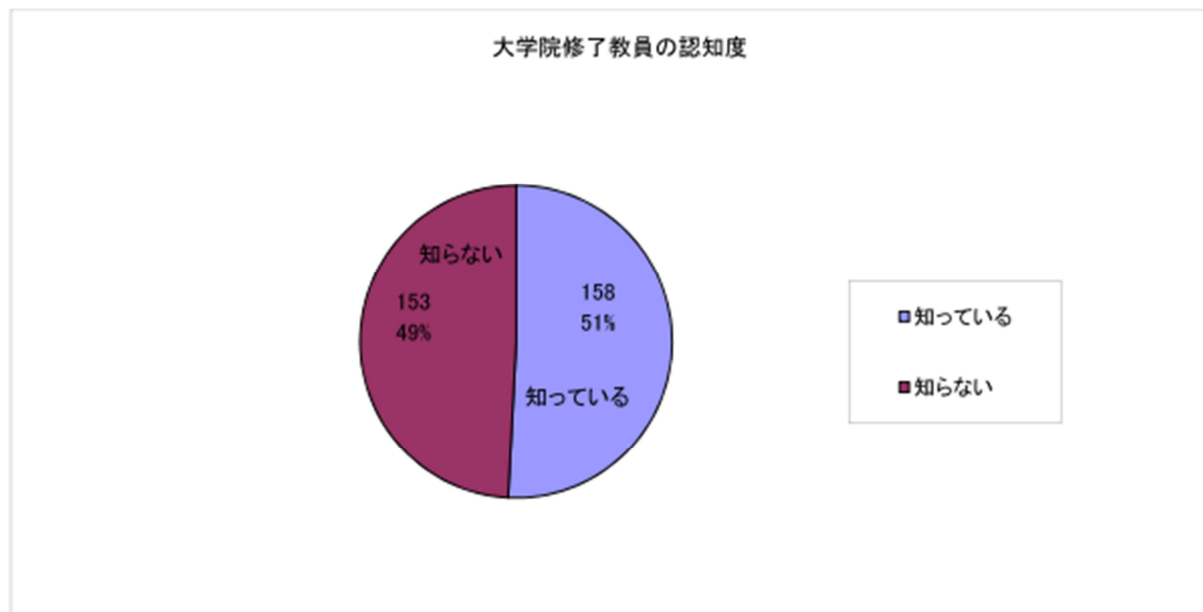
(グラフ 2 (平成 24 年 3 月実施 卒業生に対するアンケート結果より))

## (2) 鳴門教育大学の大学院を修了した教員の全体的な印象 (グラフ4)

過去5年以内の本学大学院修了教員の認知度について、徳島県教育委員会から例年35～40人程度の現職教員が派遣されていること及び学部卒教員の認知度を考慮すると、本来あるべき認知度よりも低いのではないかと推測できる(グラフ3-1, 3-2参照)。このことから、本アンケートへの回答にあたっては、必ずしも県教育委員会から派遣された現職教員まで考慮した回答ではない可能性が高いことを考慮しておく必要がある。



(グラフ3-1)



(グラフ3-2)

「総合的に評価して、大学院を修了した教員として満足できる。」は肯定的な回答が8割を越えており、一定の評価を得ていると言える。

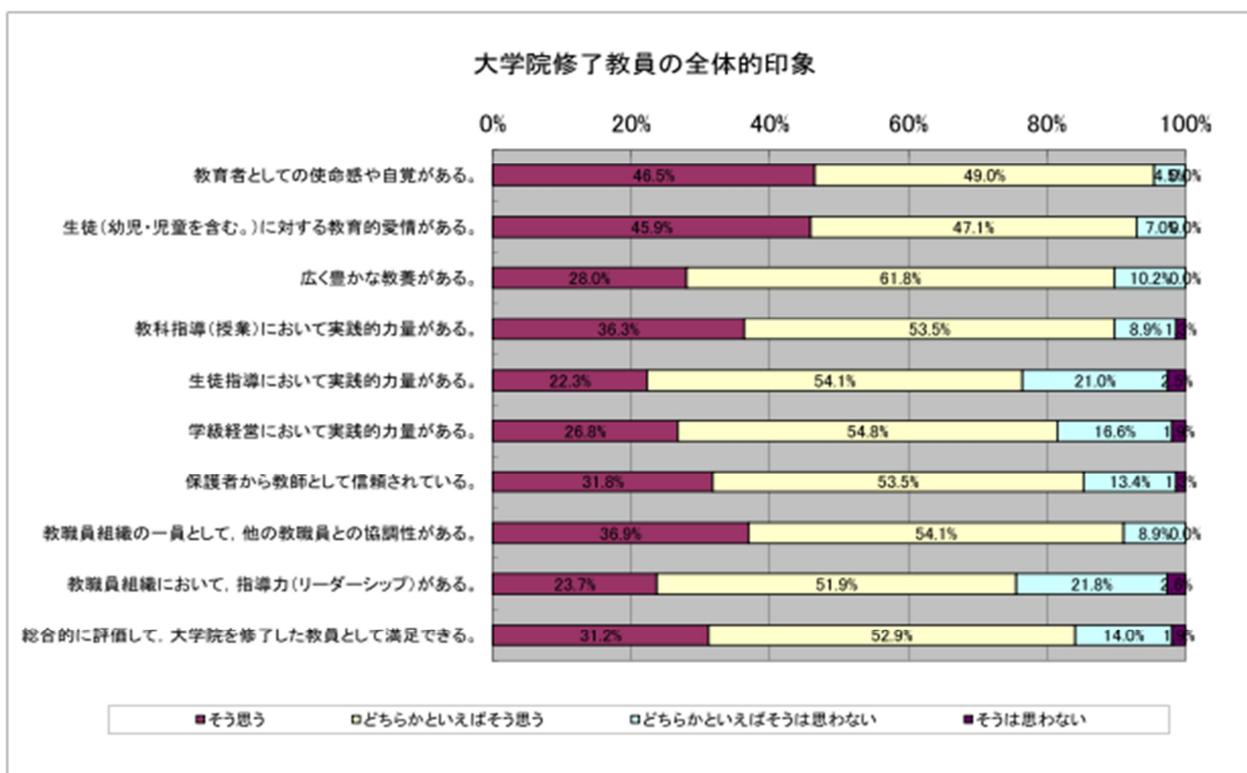
特に「教育者としての使命感や自覚がある。」「生徒(幼児・児童を含む。)に対する教

育的愛情がある。」が肯定的な回答の割合が高く、本学大学院修了生が真摯に教職に取り組んでいることが伺える。

相対的に、「教職員組織において、指導力（リーダーシップ）がある。」については、否定的な回答の割合が高い。教育委員会派遣の現職教員については、本学大学院修了後にリーダー的役割を期待されるが、教育長及び学校長等の期待に十分に答えられていない可能性が指摘できる。

ただし、本学大学院修了教員の認知度の回答から、教育委員会派遣の現職教員まで考慮した回答になっていない可能性が考えられ、この点に留意が必要である。

次いで、「生徒指導において実践的力がある。」「学級経営において実践的力がある。」が否定的な回答の割合が大きい。この点については、「教科指導（授業）において実践的力がある。」に比べても否定的な回答の割合が5ポイント以上高く、本学大学院修了教員の課題が示されていると言える。



(グラフ 4)

(3) 今後の教員の在り方を見据え、鳴門教育大学で伸ばして欲しい能力(グラフ5, 6)

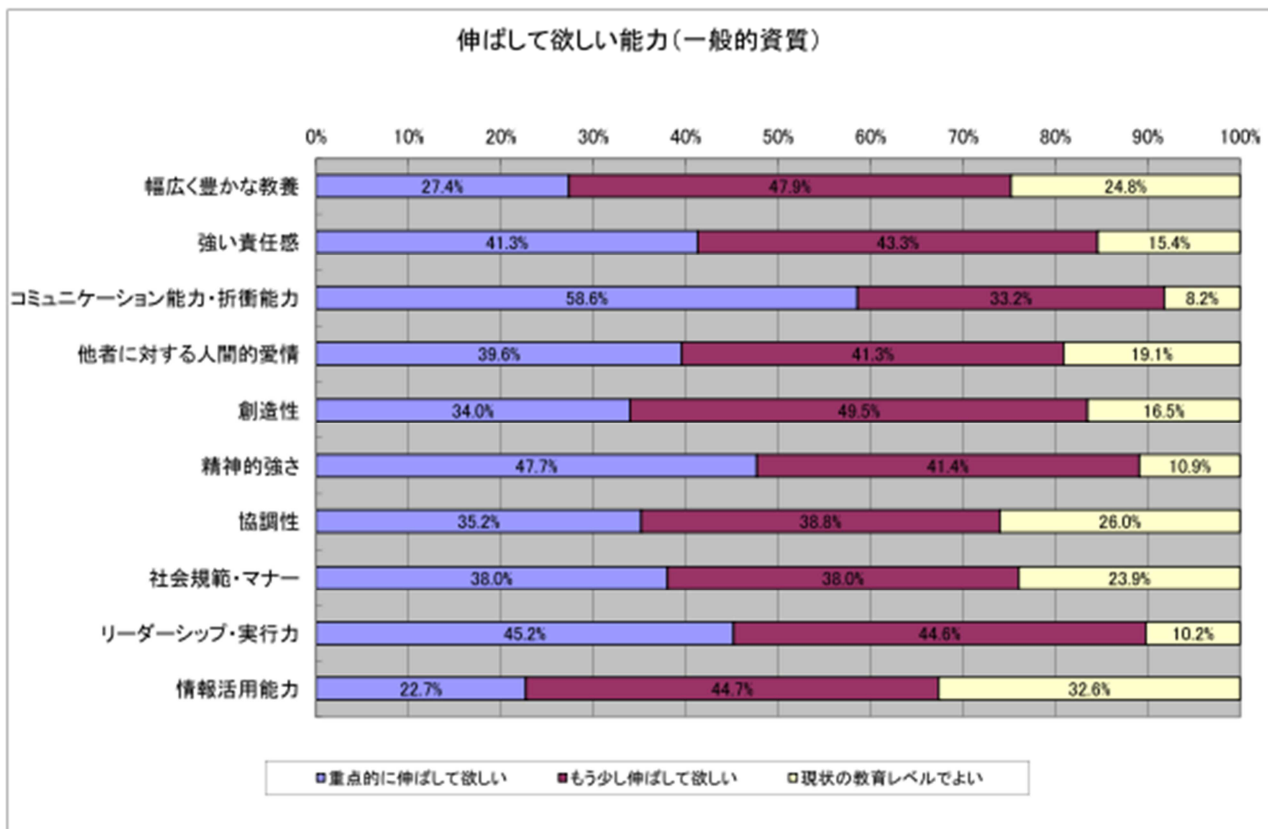
「一般的資質」のうち、唯一「コミュニケーション能力・折衝能力」が「重点的に伸ばして欲しい」とする割合が半数を超えている。

一方で、「協調性」は、「重点的に伸ばして欲しい」とする割合が20ポイント以上低くなっている。また、(1)(2)のとおり、学部卒教員・大学院修了教員ともに、全体的な印象として「教職員組織の一員として、他の教職員との協調性がある」の項目で肯定的な回答が9割を越えている。

これらのことから推察すると、学校現場において、周りの考えに合わせるだけでなく、自分の考えを論理的に相手に伝えるための能力や、意見の相違点を調整する能力が求められていると考えられ、本学において、それを身につけさせることが期待されていると言える。

ほかに、「精神的強さ」「リーダーシップ・実行力」「強い責任感」が「重点的に伸ばして欲しい」とする割合が高い。

これらについては、学生が教職に対する理解をより深められるようにしたり、より強い志望動機を持てるようにしたりする仕組み作りが必要だと考えられる。

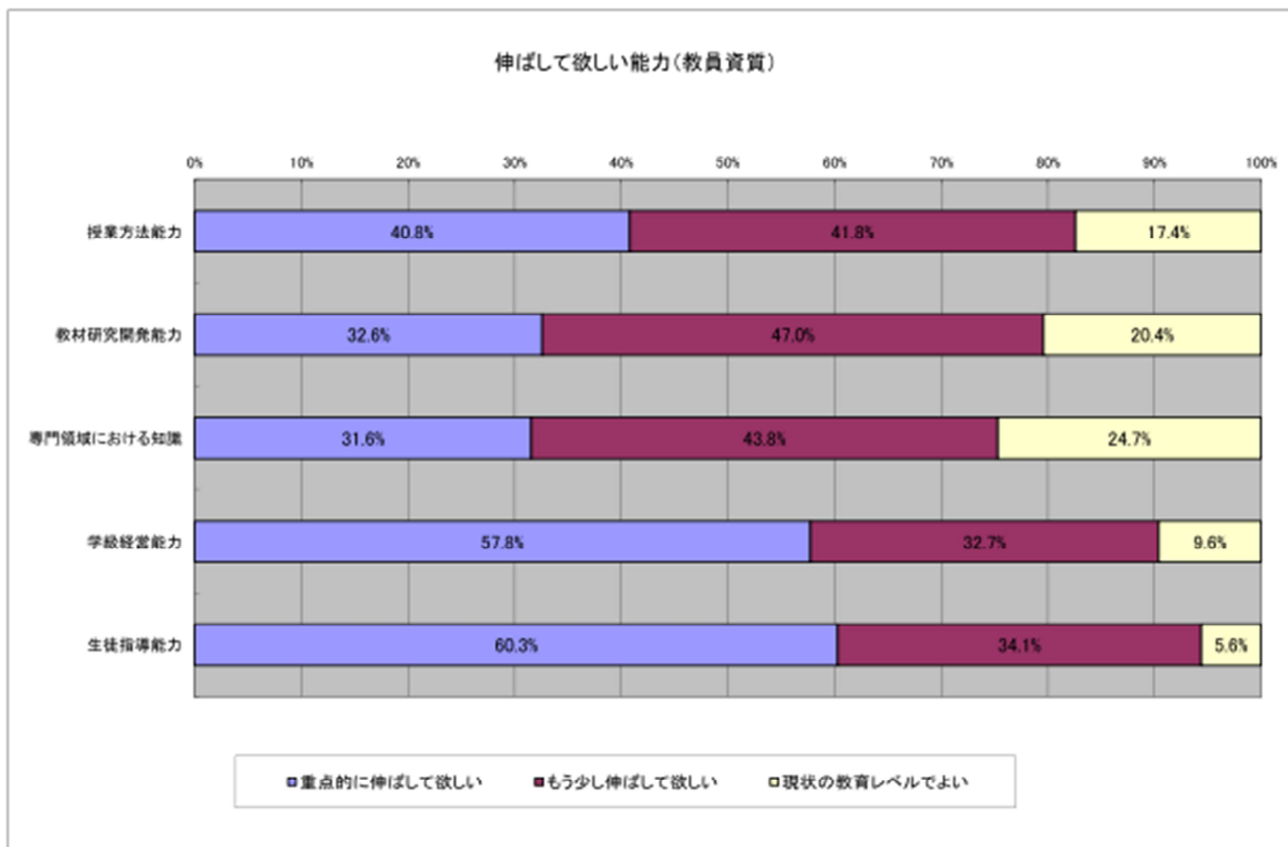


(グラフ5)



「教員資質」については、「学級経営能力」「生徒指導能力」が他の項目に比べて「重点的に伸ばして欲しい」とする割合が高い。

これらは、学部卒教員・大学院修了教員の全体的印象で否定的な回答が多かった項目と重なる。また、過去の調査においても、他の項目よりも「伸ばして欲しい」とする割合が高い傾向があり、学校現場において本学卒業・修了教員に強く求められている能力だと推察される。

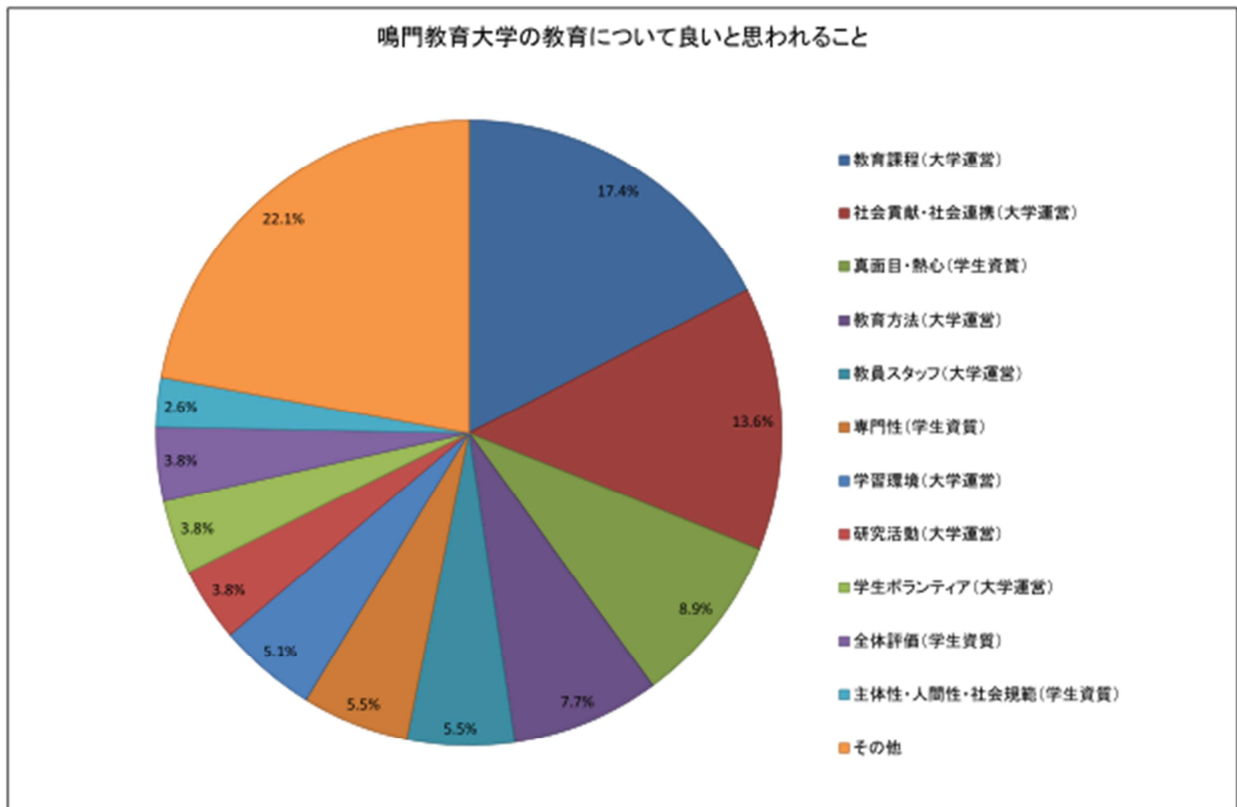


(グラフ 6)

(4) 鳴門教育大学・大学院の教育内容について、良いと思われること、改善すべき点又は要望（グラフ7，8）

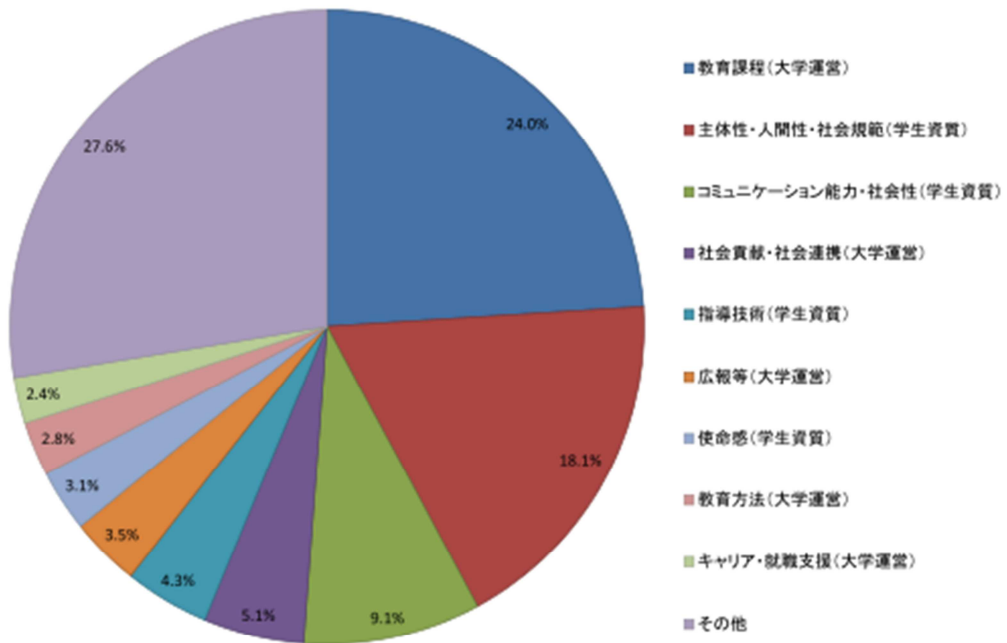
「良いと思われること」及び「改善すべき点」の最上位に、「教育課程」が挙げられているが、「良いと思われる」の回答件数に比べ、「改善すべき」の回答件数が約1.5倍ある。このことから、今後一層の「教育課程」の充実を期待されていると考えられる。

また、改善すべき点又は要望として「主体性・人間性・社会規範」及び「コミュニケーション能力・社会性」が上位に挙がっており、教育面のみならず、人間性や社会人としての能力の涵養に努める必要がある。この点は、「鳴門教育大学で伸ばして欲しい能力」として、「コミュニケーション能力・折衝能力」が高いポイントを得ている（グラフ5参照）こととも関連していると考えられ、重点的に取り組んでいく必要がある。



(グラフ7)

鳴門教育大学の教育について改善すべき点又は要望



(グラフ 8)